

クロアチア情勢

主な出来事

2015年6月

内政

- 1日、首相府において、ミラノビッチ首相、マティッチ退役軍人相、コトロマノビッチ国防相および退役軍人団体代表5名の間で公開対話を実施。また8日にも退役軍人省において、2回目の対話（非公開）を実施。両者は、退役軍人問題に取り組むワーキング・グループを設置することで合意。
- 2日、ミリエニッチ司法相は、ユーゴ紛争時にクロアチア領域内で戦争犯罪を行った罪で2010年にセルビア当局に拘束され、禁固12年の有罪判決を受け同国刑務所に拘留されていたベリコ・マリッチ氏が、クロアチア司法当局に引き渡された旨発表。
- 2日、汚職・組織犯罪対策本部（USKOK）は、ロブリッチ＝メルゼル前シサク・モスラビナ県知事（元社会民主党（SDP）所属、現無所属議会議員）他5名を汚職容疑で起訴。
- 3日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、経済界、学術界、メディア関係者16名からなる「経済評議会（Economic Council）」を設置。議長にユリチッチ大統領府長官、書記長にユルチッチ同経済担当顧問を任命。
- 5日、USKOKは、カルメタ・ザダル市長（前海事・運輸・インフラ相、クロアチア民主同盟（HDZ）所属）他12名に対し、収賄および職権乱用容疑で起訴状を発行。
- 9日、グラバル＝キタロビッチ大統領およびプシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、ザグレブにおいて「クロアチア外交記念日」の記念式典を開催。
- 11日、USKOKは、6名のザグレブ市議会関係者に対し、2006～2009年の期間に行われた汚職容疑で起訴状を発行。
- 14日、クロアチア治安・情報庁（SOA）が2014年の治安情報をまとめた「年次報告書2015」を発行。同報告書によれば、クロアチアはテロの脅威は低いものの、EU・NATO加盟国として油断はできないとしている。また、ISILの支配地域に滞在するクロアチア国籍所持者は6名で内2名が戦闘に従事、ウクライナ軍に参加したクロアチア人義勇兵は20名弱で、現在も8名が同地に滞在していると報告した。
- 17日、HDZ結党26周年記念式典開催。
- 21日、ヤドブノ（当国中部）において、第2次大戦中にウスタシャが管理していた強制収容所で亡くなった犠牲者の追悼式典開催。シプシュ文化相が出席。また、セルビアから、ブリン労働・雇用・傷痍軍人・社会問題相が出席。

●22日、シサク(当国中部)において、「反ファシスト闘争記念式典」開催。グラバル＝キタロビッチ大統領、ミラノビッチ首相、レコ議会議長ら政府要人が出席。(本件式典は、1941年6月22日に、同地において第1シサク・パルチザン部隊(第2次大戦時、欧州において初めて設立された反ファシスト軍事部隊)が設立されたことを記念したもので、同日はクロアチアにおいて祝日(「反ファシスト闘争の日」)とされている。)

●22日、ヤゾブカ・ピット(ザグレブ近郊)において、1945年5月にパルチザン部隊によって殺害されたウスタシャ兵士の追悼式典開催。本式典はグラバル＝キタロビッチ大統領の後援の下開催された。(同大統領は欠席したが、大統領特使としてエシフ市民団体「クロアチアの死の行進」代表が出席。)

●25日、「建国記念日」を迎え、グラバル＝キタロビッチ大統領、ミラノビッチ首相、レコ議会議長ら政府要人がミロゴイ墓地を訪問し、「痛みの壁(Wall of Pain)」、「祖国防衛戦争」戦没者追悼十字架、トゥジマン初代大統領の墓および第2次大戦戦没者慰霊墓に献花した。

●29日、HDZのマレティッチ欧州議会議員および同党財務委員長のチョリッチ党員は、同党作成の経済政策プログラムを発表。右プログラムにおいて、①投資、②改革および質、③公的財政の安定の3つの分野における解決案を提示。

外交

●1－2日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、スロベニア・ポルトロジュで開催された「経済会議サミット100」に出席。右は、「ブルドー・ブリュニ・プロセス」(南東欧地域的首脳サミット)の一環として実施されたもの。同サミットのマージンで、グラバル＝キタロビッチ大統領は、パホル・スロベニア大統領およびイバノフ・モンテネグロ大統領と二国間会談を実施。

●1－5日、中国海軍第19次護衛部隊(「臨沂」、「い坊」(ミサイル・フリゲート艦)および「微山湖」(総合補給艦)から編成される)がスプリットのローウ海軍基地に寄港。グラバル＝キタロビッチ大統領が視察訪問(4日)。

●3日、ミラノビッチ首相は、当国訪問中のロイバス・エストニア首相と会談。ミラノビッチ首相は、クロアチアのシェンゲン地域への加盟申請を本年7月に実施する旨言及。またロイバス首相はグラバル＝キタロビッチ大統領とも会談。

●4日、レコ議会議長はモンテネグロを訪問し、ジュカノビッチ・モンテネグロ首相およびクリボカピッチ同議会議長と会談。二国間関係は良好であり、議会協力の重要性を確認。

●5日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、「世界安全保障フォーラム」出席のため、モンテネグロ・ブドウバを訪問。モンテネグロのNATO加盟を強く支援。また6日にはグラバル＝キタロビッチ大統領も同フォーラムに出席。クロアチアは南東欧地域のEU・NATO加盟を支援し続ける旨言及。

●6日、クロアチア、モンテネグロ、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)、アルバニアの外相および経済相は、モンテネグロ・ブドウバで開催された安全保障フォーラムのマージンで、「アドリア・イオニア・ガスパイプライン」プロジェクト実施に向けた協力に関する共同声明に署名。

- 8日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、モンテネグロ・ブドゥバで開催された南東欧地域首脳（大統領級）会議「ブルドー・ブリュニ・プロセス」に出席。本年の同会議には、フィッシャー墺首相が域外国賓客として招待された。
- 8日、クロアチアは、中国・寧波で開催された「中国・中東欧投資・貿易博覧会（China-CEEC Expo）」に特別招待枠で参加。開会式にメシッチ元大統領が出席。政府からはレベリッチ経済省次官およびコラツァ観光省次官、地方自治体からフレゴ・イストラ県知事およびミレティッチ・プーラ市長が参加。
- 9日、グラバル＝キタロビッチ大統領、ミラノビッチ首相、コトロマノビッチ国防相らは、当国訪問中のアレン対ISIL国際有志連合担当米大統領特使（将軍）と会談。アレン特使は対ISILとの闘いに対するクロアチアの貢献に謝辞を述べた。
- 9－10日、ミラノビッチ首相は、EUおよび南米・カリブ海諸国首脳会合（EU－CELAC）出席のためブリュッセルを訪問。
- 11－14日、カラマルコHDZ党首（野党第1党）がカナダを公式訪問。イエリック・カナダ国務相（外務・領事担当、クロアチア系カナダ人）、レイット運輸相およびケニー国防相との会談やクロアチア系カナダ移民らとの意見交換を実施。
- 13日、尹炳世（ユン・ビョンセ）韓国外交部長官がクロアチアを訪問し、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相とクロアチア・韓国外相会談を実施。地域情勢や国際組織内での協力、二国間経済協力につき協議。
- 15－16日、グラバル＝キタロビッチ大統領、ミラノビッチ首相およびレコ議会議長は、当国を公式訪問中のヨハニス・ルーマニア大統領と会談。良好な二国間関係を確認するとともに、更なる経済協力の可能性につき協議。
- 15日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、中欧イニシアティブ（CEI）外相会合出席のため、マケドニア・オフリドを訪問。
- 15－16日、グラバル＝キタロビッチ大統領（兼クロアチア軍最高司令官）は、NATOおよび開発・国際関係研究所後援の下、国際会議「現代の安全保障環境におけるクロアチア」をザグレブのクロアチア陸軍士官学校にて開催。
- 16－18日、ミラノビッチ首相が訪日し、皇太子殿下との御接見および安倍総理大臣と日・クロアチア首脳会談を実施。クロアチア首相の訪日は初となる。また訪日中、同首相は谷垣・日本クロアチア友好議連会長および日本企業関係者らとの意見交換も行った。
- 18－20日、グラバル＝キタロビッチ大統領はウィーンおよびブラチスラバを公式訪問し、フィッシャー墺大統領およびキスカ・スロバキア大統領と会談。また同地で開催された「国際安全保障フォーラム（GLOBSEC 2015）」に出席し、そのマージンでキャメロン英首相と会談。
- 22日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、EU外務理事会出席のためルクセンブルクを訪問。
- 25－26日、ミラノビッチ首相はEU理事会出席のためブリュッセルを訪問。
- 29日、コトロマノビッチ国防相およびロブリッチ・クロアチア軍参謀総長は、当国訪問中のホッジズ米軍欧州司令官（中将）と会談。

- 29日、ブルドリャク経済相は、当国訪問中のハックスライン米 국무省国際エネルギー担当特使・調整官と会談。欧州のエネルギー供給・安全保障におけるクロアチアの重要性を確認。
- 29－30日、グラバル＝キタロビッチ大統領およびミラノビッチ首相は、当国を公式訪問中のグリボウスカイテ・リトアニア大統領と会談（29日）。また29日には「クロアチア・リトアニア・エネルギーフォーラム」が開催され、両大統領が出席した。

経済

- 2日、クロアチアの民族資本のたばこ企業TDR社は、ブリティッシュ・アメリカン・タバコに対し同社の工場を50万ユーロで売却することに合意した旨発表した。
- 11日、クロアチア政府は延滞利子率の低減に向けた契約関係法の改定を採択。当該改定の中では、企業および公的機関間については15%から10.14%、企業間においては12%から10.14%、それ以外の契約関係においては12%から8.14%の延滞利子の低減が盛り込まれている。
- 17日、独政府は定例会見後の声明として、7月1日より、クロアチア国籍者の独国内の労働市場への参入に対する制限が撤廃され、クロアチア企業は、その従業員を制約無く独国内で就労させることが可能になる旨述べた。
- 24日、ザグレブ経済研究所は、2015年および2016年の経済成長予測を各々0.4%（前回推計値0.2%）および0.9%（同0.8%）と上方修正した。上方修正の要因は、2013年および2014年のGDP統計における投資と輸入のトレンドが下方から上方へと改定された点および輸出が前回推計時点を上回る伸びを示していることによる。
- 24日クロアチア統計局は2015年5月の登録失業率を公表した。今年5月の失業率は17.1%（同年4月18.4%）となり、5月の値としては過去5年間で最低水準となった。

主要経済指標

（2015年月次データ、対前年同期比（除く失業率）、政府統計局発表）

輸出総額 （4月）	輸入総額 （4月）	貿易赤字 （4月）	工業生産高 （5月）	インフレ率 （5月）	失業率（登録制） （5月）
+11.4% （271億クーナ、 35.3億ユーロ）	+5.9% （448億クーナ、 58.4億ユーロ）	-1.4% （178億クーナ、 23.1億ユーロ）	+4.4% （4月：1.2%）	0.0% （4月：-0.1%）	17.1% （4月：18.4%）

本クロアチア情勢は、クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。